

		「	落穂拾い	」	
		の	余	話	

トムキンソンのビブリオグラフィー

本誌前号の『『ダブス・プレス本』余話』は、善本獲得の裏筋だが書誌の効用をも説く点興味ふかい。当事者としては問題の1冊、missing linkを解くのに役立った「G. S. トムキンソンの私家版についてのビブリオグラフィー」を架蔵本に見出したのも驚きであり、短い時間での探索には幸運な発見でもあった。

コブデン＝サンダーソンの日記（これが先年のケルムスコット・プレス本の関連でか所蔵していたことも助かった）や“ダブス・プレス”についての諸辞典の記述をたどりながらも、何とか、詳しい書誌上の確証を得たい……と調査をすすめる。そんな中で、*Encyclopedia of Library and Information Science* の“ダブス・プレス”項末の参考文献に *Tomkinson ; A Select Bibliography of Modern Presses. 1928* を見出した。また、斯界の長老でこうした調査の折りには私的な教示を惜しまれない館外某氏からも、「トムキンソンの書目で調べてみました？」の示唆があった。てっきり未所蔵と思ひこみ、なおのこと隔靴搔痒の感じきりの時、「トムキンソン、書庫にありましたよ」と同僚が高く右手にかかげた、清楚な装幀ながら部厚い書誌は、爾後の書店との交渉に役立った。

戦前の旧帝国図書館本にも無く、現在の蔵書にも入っていないのが当然のよう

に思えた1928年刊の私家版書誌。いつ、誰が選んでくれたのかな…と、タイトルページ裏の受入印を見ると、何と登録番号は（洋書の）31616、思わず巻末見返しを拡げると見覚えのあるCL/NOのラベル。3万台の登録番号すなわち昭和23年開館当初購入の藤山文庫（藤山雷太氏の頃から力を入れ集めたという中国関係書のコレクション）の1冊ではないか。*The China year book* や Morrison の *Catalogue of the Asiatic Library. 1924* など今なおアジア資料室の書架に現役の参考図書として並ぶこれら藤山文庫本の中に、こうした現代英国私版本書誌が入っていようとは。

現在の都ホテル東京店のあたりとか、白金旧藤山愛一郎邸の一劃に在ったとか伝えられる、この藤山文庫（中国経済文化研究会蔵書）の経緯については、今や知る人、物聞く人も絶えてしまった。中国大陆の戦雲もまだかすかであった頃、のどかな書窓にこのトムキンソンを繙きながら、ケルムスコット、ダブス、アシエンデン……と異国の稀本に思いを馳せていた司書が居たのであろうか。

「書庫内で、よくぞこの本を集めておいてくれた——と思わず先人の努力に脱帽したくなる……」とは収書に苦勞した先輩からよく聞かされた言葉だが、ここにも一見埒外の書とも見える書誌を選んでもおいてくれた、脱帽したくなるような司書の存在に気付いたことであった。

（図書館協力部 稲村徹元）